

国 絵 図 ニ ュ ー ス

第13回高知大会のお知らせ

例年になく猛暑もようやく終わりを告げてまいりましたが、皆様お元気でお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、渡部淳先生(土佐山内家宝物資料館)にお世話で、土佐での研究会を下記の通り行います。当初9月に計画しましたが、国体の開催で変更しましたのでご注意ください。ご所蔵先の格別のご配慮で宿泊先での閲覧です。ご存知のように土佐国絵図は、わが国最大級の大きさの絵図で、今回を見逃すと閲覧は不可能と思われます。また、渡部先生の貴重な研究報告もあります。会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

■ 開催日 2002年11月23日(勤労感謝の日)～24日(日)

■ 集合場所 11月23日 14:00 高知グリーン会館

高知市本町5丁目6-11 電話 088-852-2701

(昼食は済ませて集合してください。)

東京方面からは羽田10時45分発高知行 JAL121 便が便利です。

岡山方面からは10時49分発特急南風が便利です。

■ 日程

11月23日 グリーンホール

14時00分～15時30分

研究発表 渡部淳先生

(土佐山内家資料館)

15時30分～17時00分

慶長国絵図関係資料、土佐

・ 阿波元禄国境縁絵図、土

・ 佐・伊予元禄国境縁絵図

の熟覧

18時より懇親会

土佐名物の皿鉢(さわち)料理

11月24日 58 豊和室

9時00分～12時00分

正保日本図

元禄土佐国絵図

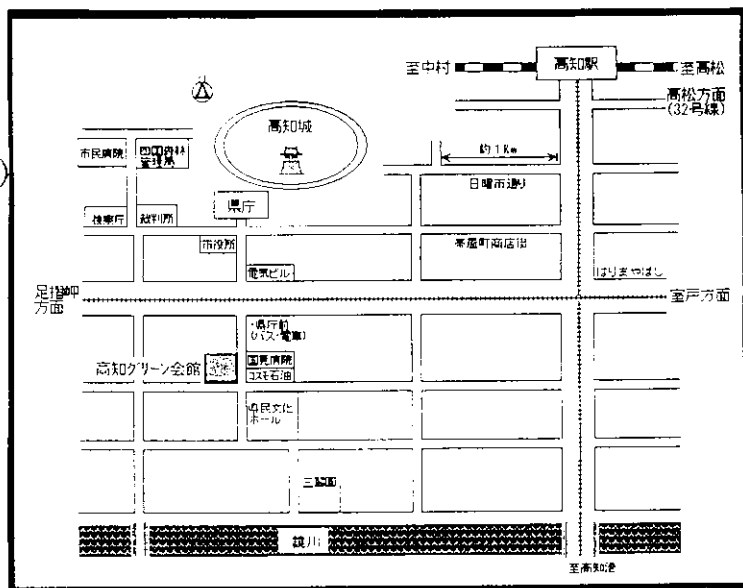
元禄土佐国絵図縮図

■ 費用

学生 9000 円(三人部屋)

一般 12000 円(二人部屋)

※一人部屋を希望の方は別途料金が必要です。はがきでお知らせください。



空港バス・はりまや橋下車・路面電車で県庁前下車
高知駅・路面電車はりまや橋乗換え・県庁前下車

参加申し込み方法同封のはがきに必要事項を記入の上、9月30日必着で申し込みください。

明治政府撰国絵図の編纂事業—丹波国を中心に—

磯永和貴

はじめに 明治政府撰国絵図の編纂事業についての検討はほとんど行われていないように思われる。今回は、丹波篠山藩の青山家に所蔵される「御国絵図一件」と称される明治丹波国絵図に関する史料をもとに明治政府撰国絵図の編纂事業の一端を江戸幕府撰国絵図の場合と比較しつつその特徴について概観する。

作製主体 江戸幕府撰国絵図は正保国絵図以降、将軍の命によって大名や幕府官僚から選ばれた絵図元が国絵図を2枚作製し幕府に献上、1枚を将軍の蔵である紅葉山文庫に、もう1枚は実務用に勘定所に収められた。国絵図が国を対象に描かれたことから1国が1領主からなる場合は、そのままその領主が絵図元となり作製したので問題なかったが、1国に複数の領主がいる場合はその中から数名の領主が絵図元に選ばれ、各領主が作製した領分絵図を絵図元が編集して一国絵図に完成させたのである。

例えば正保国絵図において1国が1領主で問題なくそのまま絵図元になったのは18カ国で、各領主の作製した領分絵図を絵図元が編集した国は52カ国に及んでおり、後者の方が作製方法としては主体をなしていた(磯永「正保国絵図の調査と村差出帳」鷹陵史学22号、1996年)。

これに対して明治政府は、行政官通達として府県に国絵図一枚の提出を明治1(1868)年12月に命じた。府県は直ちに調製にかかったが、当時藩は健在(廃藩置県は明治4年)であったことから1国に複数の藩がある場合、次の編纂方法を指示した。

すなわち、行政官より篠山藩が明治1年12月受けた指示では、「藩・府県限ニテハ促と難取調儀モ有之ニ付、藩々領地一円・飛領共色分ニシテ早々取調可差出候事、(略)御料并他領入交無之藩々ニハ差出ニ不及候事」とあり、一国を藩が一円に支配する国は府県が作製するが、一領地が複雑な構成をとる国では各藩がその領地の絵図を作製し、それを府県が編集して一国絵図としてまとめ政府に提出せよというものであった。

丹波国ではこうした指示を受けて、「国絵図取調掛」として篠山藩が多紀郡、亀山藩が桑田郡、福知山藩が天田郡、園部藩が船井郡・柏原藩が氷上郡・綾部藩が何鹿郡を担当し、各領主から提出される領分絵図を元に郡図に調整して、久美浜県に提出したのであった。また、篠山藩は摂津国武庫郡に飛地があったが、この領分絵図については、武庫郡の担当であった桜井遠江守(尼ヶ崎藩)へ届けられ武庫郡図としてまとめられ兵庫県郡政局へと提出されている。

ここで問題なのは、丹後国熊野郡の久美浜県によって調製が進められた点である。江戸時代の久美浜には幕府代官所が設置され、丹後・但馬両国の幕府領を管轄した。久美浜県は、このことから明治1年2月に置県されたものであった。丹波国には県が設置されていなかったため、国が異なる久美浜県が調製したものと思われる。明治初期にあつては、丹波国のように各国に必ずしも府県が設置されていないので、明治国絵図の編纂において府県がどの国を調製したかについては未解明な部分が多く、今後の検討が待たれる。

ところで、明治政府の国絵図作製は天皇の命によって発せられたのではなく、行政官が示達している。この行政官とは、明治政府の三権分立の構想によって設けられた行政機関で明治2年7月に太政官となった。幕府撰国絵図は将軍への忠誠を基本理念とした近世武家政権の政治的儀礼が全面的に強調された絵図であったが、明治政府撰国絵図は天皇への献上ではなく、政府機関へ提出されている。こうした点について、明治政府撰国絵図の編纂目的を検討し、幕府撰国絵図の相違点を明らかにする必要がある。

作製基準の示達 明治1年12月には、明治政府の行政官から縮尺・凡例・使用する紙の基準が次のように示達された。

一、 国図 一枚、但、一里三寸之積を以て図取可致事

御領之村々 朱色、宮・堂上領之村々 薄朱、諸侯領之村々 白、中下太夫上下士領之村々 青、社寺領之村々 黄、府県 □、城下 回、村々 ○、宿駅 ◎、関門 代、社寺 ○、古城跡 ㄣ、山 青、海湖沼川 浅黄、郡分 黒筋、往来 朱筋、右之通国図美濃紙裏打ニ認夫々色分合紋を以て分明取調早々可差出候事

江戸幕府の指示した縮尺は1里6寸(21600分の1)だったのに対して、明治政府は一里三寸(43200分の1)を求めている。明治国絵図はおおよそ幕府撰国絵図の2分の1の大きさで作製されたこととなる。幕府撰国絵図が巨大であったことから実用性に乏しく作製の時間や費用も莫大であったことから、縮尺が半分になったのであろう。

凡例で最も注目できるのは、村の領主色分けであろう。「御領村々」は旧幕府直轄領、「宮・堂上領」は天皇公家領、「諸侯領」は藩領、「中下太夫・上下士領」は旗本領など？を指すのであろうか。これに「社寺領」を加えて6種の色分けで、村の領主を明確に区別することを求めており、明治国絵図の作製目的がこの点にあったことが判明する。幕府撰国絵図においては正保国絵図まで領主色分けが行われたが、元禄国絵図において中止され、国郡図が完成したとして位置づけられている。明治政府が村の領主色分けを求めた意味は、いかなる目的によるものかについての解明が待たれる。

編纂過程 最後に月日を追いながら編纂の過程を年表風にみてみよう。

明治1年

12月29日 久美浜県知事駒沢三九郎より国絵図編纂担当にあたる郡奉行1・代官2・山方1・会所1・山手代1・郷組2名が達される。

明治2年

1月13日 篠山藩より久美浜県知事へ明治政府国絵図を天保国絵図の編纂方法によって作製してよいかとの問合せあり。

1月26日 久美浜県公用方より丹波国諸藩へ政府役人が明日27日に京都市北区油小下立売り下ルに来るので旅宿に参集するよう指示あり。

この頃 篠山藩は一里塚の調査を行い、図の訂正を進める。

2月10日 京都留守居(政府役人?)から速やかに絵図を提出せよとの指示あり。

2月12日 多紀・桑田領郡の篠山領分絵図を久美浜県知事に提出の上、京都留守居へ届けられる。

2月22日 久美浜県知事より丹波国の諸領主の領分絵図がすべて提出されたので国絵図掛は各郡ごとに取まとめて縮写図を提出との指示あり。

3月21日 久美浜県へ政府役人・丹波各藩国絵図掛役人出張。郡図を張り合わせて編纂して5月頃に丹波国絵図完成。

5月18日 園部藩より完成した国絵図と「丹波国村名書」が篠山藩に到着。同月20～27日にかけて書写し、29日に次の巡廻先である柏原藩に届ける。

6月 久美浜県より篠山藩へ丹波国絵図編纂にかかわる費用が通達され支払う。

10月 篠山藩領分絵図作製にかかわる費用を支払う。

おわりに 篠山藩の明治政府撰丹波国絵図の編纂は、明治1年12月に開始され3月21日に完成し、国絵図を篠山藩の国絵図掛が書写、費用を10月に支払って完了した。たった4カ月の期間で丹波国絵図は完成したのである。明治3年に再び「御国絵図新規改正命」が布達されており、上述の明治政府撰国絵図が不備であったことをうかがわせる。しかしながら、明治3年の国絵図編纂事業は、実施されなかったようであり、中止にいたった経緯なども今後の課題となる。小論では、多くの問題点をのこした。筆者の収集した明治政府撰国絵図の関係史料も乏しい。さまざまなご教示と情報を会員諸氏に賜われれば幸いである。

本の紹介

大阪人権博物館リパティおおさか編
『絵図の世界と被差別民』

発行日 2001年9月
定価 1300円
問合せ先 大阪人権博物館
大阪市浪速区浪速西3-6-36

Tel 06-6561-5891 fax 06-6561-5995

URL [Http://www. Liberty.or.jp/](http://www.Liberty.or.jp/)

本書は、本ニュース11号で紹介した2001年に大阪人権博物館開催の第51回特別展「絵図に描かれた被差別民」の展示図録とペアとなる論文集である。収録された論文は、川嶋将生「絵図や古地図にみる被差別民」、山本尚友「京都の近世絵図と被差別民」、寺木伸明「近世大坂絵図にみる「非人村」」、小野田一幸「近世刊行大坂図にみる千日墓所とその周辺」、のびしょうじ「被差別集落絵図論序説」の6編である。

本書については、岩鼻通明先生より情報をいただきました。編集者(礪永)のメールは下記の通りです。ドシドシ本や展示などの情報をお願いします。

ニュースの号数と会合の回数について

種田祐司先生より研究会の回数について編集者にメールで問合せがありました。下記のように訂正し、皆様に報告します。1回宇治、2回東京、3回奈良、4回徳島、5回亀岡、6回山口、7回米沢、8回長野、9回臼杵、10回東京(税務大学)、11回西宮、12回佐原、13回高知とします。従って、ニュース7号の西宮大会の12回は11回に、ニュース8号の佐原13回・ニュース9号の佐原14回は12回に訂正します。また、今回の高知大会は13回です。会員の皆様に深くお詫びします。また、種田先生に感謝申し上げます。これもメールの副産物です。

会員の住所及び所属先の変更

工藤茂博会員新住所 〒670-0072 姫路市御立東2-13-23 電話番号変更なし

篠塚富士男会員新所属先 〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2

茨城県立医療大学図書館・情報課

Tel 0298-40-2830(ダイヤルイン) fax 0298-40-2303

本年度の会費を徴収します。

同封の郵便振込用紙でお支払いください。国絵図研究会は、皆様の会費によって運営しております。ご協力ください。

一般2,000円 学生・院生1,000円です

※ 研究会の会計は、上原秀明先生から小野寺淳先生にバトンタッチしていただきました。

※ 口座番号は00120-6-18473 加入者名国絵図研究会です。

編集後記▲編集子の電話が新しくなりました。住所などは以前の通りです。♥常時原稿を募集いたします。メールで送っていただきますと大変助かります。●小野寺先生が現在国絵図研究会のホームページを作成していただいています。ご期待ください。

◆次回の国絵図研究会は、滋賀県立図書館を予定しています。■現在、国絵図ニュースは100部発刊しています。残部がありますので、関係機関に寄贈をしたいと考えています。送りたい機関がありましたら、編集子までお知らせください。

ニュース編集担当・・礪永和貴 〒837-0912

福岡県大牟田市大字三池895-1

Tel & fax 0944-53-5859

mail アドレス isonaga@k3.dion.ne.jp